

夏季手当回答に対する千葉地本見解

21春闘において「ベア0」「昇給係数2」で妥結以降、各機関で職場現実と其々の意識や実践を振り返り総括してきた。職場の組合員や未加入者は、「赤字だから仕方がない。出ただけまし。定期昇給を知らない」など、多くの現実が明らかになった。一方、組合員は「労働実態は今まで以上に仕事をしているのに、なぜ係数が2だけなのか！」という怒りの声が多くある。

千葉地本は、21春闘総括を繰り返しながら夏季手当要求づくりと満額獲得に向けた集会や対話で組合員の声を集約し、掲示板で意思を示してたたかいを積み重ねてきた。職場の声は「定期昇給が半分で生涯賃金が下がっているのに、手当まで昨年以下では生活が厳しい」「職場には年度末の経費の使いきり等、黒字に向けた努力が見えない」という声がある。一方、組合員からは未加入者に対して「JR東労組に加入して、一緒にたたかって欲しい」という声も多い。また、ジェイアールバス関東やJESSで働く仲間は、私たち以上に劣悪な条件で、現在の所得では生活ができずに転職を余儀なくされている現実もある。

組合員は赤字を理解しつつも、新型コロナウイルスの感染リスクと隣り合わせで、公共交通機関の使命である列車運行を維持し、会社施策を担いながら思考を停止させずに、会社の発展のために職場で奮闘している。本部交渉団も生活するために必要な具体額などの切実な組合員の声を訴えたが、「そのような主張や声があることは承知しているが経営状況を理解して欲しい」と回答している会社姿勢に対して、社員と家族を大切にしたいという思いがあるのか危機感を覚える。また、私たちの要求からこれほど掛け離れ、昇給係数2での2.0ヶ月回答は、到底納得できるものではない。

中央本部は、夏季手当回答に対して「組合員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を求める2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ」で回答指定日を6月14日として提出した。これは各機関の議論で出された組合員の怒りの声と意思である。団体交渉を開催して要求を実現するためには、職場からの議論で「赤字だから仕方がない。2.0ヶ月出るだけましだ」という職場の雰囲気を変え、生活するために仕事をしているという労働者意識を高めつつ、JR東労組への結集を呼び掛けることである。最後まで諦めずに、中央本部と共に職場からたたかい抜こう！

以 上

2021年6月10日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部執行委員会